

長期ステロイド使用後に IgE 推移を追った成人アトピーの経過 (40 代男性)

症例 ID：001-40-FM2 | 記録日：2013 年 12 月 4 日

1. 診断・治療前経過

幼稚園頃から手足の裏がかさつき、保湿クリームで対応していました。中学 2 年生頃から全身のかゆみが出るようになり、就寝前に体が火照って全身を掻きむしり、眠れないことが多くなりました。

高校 2 年生の時に皮膚科を受診し、ステロイド治療が始まりました。社会人になってからも皮膚科・整形外科・大学病院で治療を続けましたが、顔への強いステロイド使用、緑内障、長期通院を経ても、根本的には落ち着きませんでした。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	高校 2 年生頃からステロイド内服・外用薬を使用しました。顔へのステロイド外用歴もあります。
製品名	不明です。
強度	顔に使うには強すぎるステロイドが処方されていた経過があります。具体名は不明です。
使用期間	高校 2 年生頃から大学病院通院まで長期に使用しました。
中止時期	平成 17 年 2 月の松本医院初診後に中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～中学時代	来院前	手足のかさつき、全身の痒み、就寝前の火照りと掻破がありました。
高校 2 年生頃	来院前	皮膚科でステロイド治療を開始しました。
社会人以降	来院前	顔へのステロイド外用を経験し、大学病院では複数の治療を受けました。
平成 17 年 2 月	治療開始	松本医院を受診されました。
治療開始後	リバウンド期	約 2 か月間休職するほどのリバウンドを経験しました。
治療開始約 4 年後	経過後半	朝晩に保湿クリームを塗らないと乾燥を保てなかった皮膚が、かろうじて保湿クリームなしで過ごせるようになりました。
治療開始約 7 年後	長期経過	大学病院では下がらなかった IgE や詳細なアレルギー反応値が下がりました。
2013 年時点	現在	手のひらと足裏のガサつき、冬のあかぎれ、喉周辺の痛みや眼周囲の重さ・顔の浮腫みがありました。

4. ピーク時期

症状が強かった時期は、松本医院で治療開始後に約 2 か月間休職を要したリバウンド期です。

5. 検査値

項目	内容
IgE	初診時：約 8000、リバウンド時最大：約 15000、2013 年 10 月 25 日：1418。

6. 困りごと

- ・ 中学時代から就寝前の全身の痒みで眠れないことがありました。
- ・ 顔へのステロイド使用後、眼圧上昇と視野・視力への影響がありました。
- ・ 治療開始後のリバウンドで約 2 か月間休職しました。

7. 経過のまとめ

平成 17 年 2 月に治療を開始し、約 2 か月の休職を伴うリバウンドを経ましたが、約 4 年後には保湿クリームなしでも過ごせる日が出て、約 7 年後には IgE やアレルギー反応値に前向きな変化がみられました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。